

## ハシブトガラ

昼食の時間となり、基地に向かって歩きはじめた途端「とりが、ほれ」と前を歩いていた津金さんが、私の方に振り返って地面を指差しました。咄嗟にはなんのことやら判りませんでした。近づいて指さす方を見て落雛だと思いました。澄川都市環境林の見本林近くでの 2012 年 6 月 23 日正午少し前のことでした。



ヒナの装いはコガラを思わせました。作業道の路面にじっと動かずに立っていました。近づいて手を差し伸べても動きません。元気なヒナに限って巣から落ちることがよくあります。前日の雨を引きずり、少し寒い感じでしたので、落下のショックやなにやらでパニック状態だったのでしょうか。取りあえず保護することにしました。

前日、頬のイボを除去してもらう手術をしたことで、ヘルメットの顎紐がかかる場所でもあり、午前中だけのつもりで参加したので、取りあえず、水を飲ませて、ヘットボトルを加工して入れ物とし、ヒナを連れて帰宅しました。

さて、何を食べさせればよいのか、昔、ヒバリやスズメのヒナを育てた経験から何とかするのは思っていました。「千曲川のほれ、あの草がいい」と津金さんが言っていました。「みどりなすハコベは萌えず、若草も敷くによしなし」のハコベのことだとすぐに理解しましたが、ハコベはおかずで主食ではありません。主食は卵黄にしました。ハコベも少し摘んできて播り潰し、卵黄をからませてスポイドで与えました。はじめは口をつぐんでいましたが、嘴の先に付いた卵黄を舐めたことで、口を開けてくれました。タイミングを合わせてスポイドを押すのです。段々信用してくれるようになり、終にはスポイドをくわえ込むようになりました。これで安心です。夜半の様子を見ますと寒そうな按配でしたので、冬季作業時に使っていた靴用のホッカイ口をプリンターインクの空き箱の底に敷いてやり、ティッシュペーパーで巣状に囲い蓋をして寝かせました。

翌朝元気を確認し、スポイドを啜り込む勢いもよいので、森に返すことにしました。落ちていた場所の低い位置のミズナラの枝に止まらせて、5 分ばかり離れて見守りました。すぐにヒナは声を出して親を呼びました。ほんの 2~3 声を発したと思うや、上の方から鳥影がすっ飛んで来てヒナに近づきました。親鳥でした。ヒナに近寄り、嘴をちよいとあわせて、忙しげに飛び去りました。餌取りに離れたように見えました。カメラを持参していましたが、この間撮影することなど全く頭に浮かばず、うれしく、ほっとして、ただ親子の様子を確認しただけでした。

コガラとハシブトガラの区別は専門家の分野です。私のレベルでは不可能ですが、このヒナはハシブトガラにしておきます。理由はコガラは営巣する場所が比較的標高の高い所らしく、ハシブトガラは低地でもよいらしいということで決めておきましょう。